

# 遺跡確認のための試掘調査

土器など多くのものが見つかる！



調査員から説明をうける近藤区長 \*1



土坑や井戸が発掘 \*2



古墳時代の土器や戦国時代の陶磁器 \*1



完全な形で出土した古墳時代の須恵器「ハソウ」 \*2

伊興小学校は、足立区内最大の遺跡で、都内でもまれな古墳時代の祭祀遺跡であり、大陸との交易や大和朝廷との接触があったことを示す貴重な発見が相次いだ伊興遺跡の南にある。平成二六年六月から、平成二七年三月まで新校舎建設予定地で発掘調査が行われ、古墳時代〜江戸時代の遺跡が発掘された。

伊興小学校は、若宮八幡神社遺跡の中にあり、古墳時代の終わり頃〜中世（七世紀初め〜十六世紀頃）に繁栄したとされている。伊興遺跡公園のある毛長川流域は、足立区で初めて村が作られた地域で古墳時代には半農半漁の集落があったが、最近の調査で平安時代前半（九世紀）頃には南の若宮八幡神社遺跡に中心的役割が移ったことが判明している。

今回の発掘調査では、古墳時代終期（七世紀）の土器・須恵器「ハソウ」が、完全な形で出土した。足立区で完全な形で出たのは初めてである。須恵器は古墳時代中期（五世紀）初めに朝鮮半島からの渡来工人によって伝わったもので、ろくろで成形し窯で焼いて作る。ハソウは中央の穴に竹筒を差し込んで、水差しのように使われた酒器。見つかったものは高さが十三センチメートル程で、祭祀など特別な時に使われたものと推測される。

主に奈良時代（八世紀）までの土器が多いが、古墳時代初期（三世紀）と思われる土器片も出土している。

\*1 足立よみうり新聞掲載

\*2 足立朝日新聞掲載

